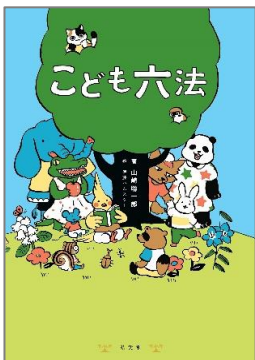




# 新刊書案内

書名	著者名
オルタネート	加藤 シゲアキ
後宮の鳥 5	白川 紺子
ちびねこ亭の思い出ごはん 黒猫と初恋サンドイッチ	高橋 由太
ちびねこ亭の思い出ごはん 三毛猫と昨日のカレー	高橋 由太
始まりの木	夏川 草介
アウシュヴィッツのタトゥー係	ヘザー・モリス
おやすみラフマニノフ	中山 七里
どこかでベートーヴェン	中山 七里
コロナの時代を生きるための ファクトチェック	立岩 陽一郎
こども六法	山崎 聡一郎
スマホ脳	アンデシュ・ハンセン
野良犬の値段	百田 尚樹



いじめや虐待は犯罪です。人を殴ったり、お金や持ち物を奪ったり、SNSにひどい悪口を書き込んだりすれば、大人であれば警察に捕まって罰を受けます。それは法律という社会のルールによって決められていることです。けれど、子どもは法律を知りません。誰か大人が気づいて助けてくれるまで、たった一人で犯罪被害に

もし法律という強い味方がいることを知っていたら、もっと多くの子どもが勇気を出して助けを求めることができ、救われるかもしれません。そのためにも、子ども、友だち、保護者、先生、誰でも読めて、法律とはどんなものかを知ることができる本が必要、そう考えて作ったのが本書です。大人でも知らないことがたくさんある法律の世界、ぜひ読んで、社会のルールについて話し合ってみてください。



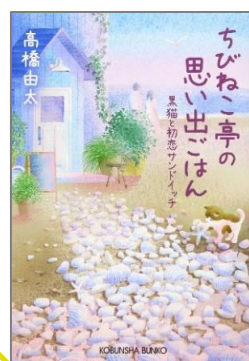
高校生限定のマッチングアプリ「オルタネート」が必須となった現代。東京のとある高校を舞台に、若者たちの運命が、鮮やかに加速していく。全国配信の料理コンテストで巻き起こった〈悲劇〉の後遺症に思い悩む蒼(いろは)。〈絶対真実の愛〉を求め続ける「オルタネート」信奉者の凧津(なづ)。恋とは、友情とは、家族とは。そして、人と“繋がる”とは何か。デジタルな世界と未分化な感情が織りなす物語の果てに待ち受ける未来とは一。



「少しばかり不思議な話を書きました。木と森と、空と大地と、ヒトの心の物語です」  
--夏川草介  
藤崎千佳は、文学部で、専攻は民俗学。指導教官・古屋神寺郎は、足が悪いことをものともせず日本国中にフィールドワークへ出かける、民俗学者だ。古屋はフィールドワークを通して、“現代日本人の失ったもの”を藤崎に問いかけてゆく。学問と旅をめぐる、不思議な冒険が、始まる。“旅の準備をしまえ”



突如としてネット上に現れた、謎の「誘拐サイト」。  
〈私たちが誘拐したのは以下の人物です〉  
文言とともにサイトで公開されたのは、6人のみずぼらしい男たちの名前と顔写真。果たしてこれは事件なのかイタズラなのか。そして写真の男たちは何者なのか。半信半疑の警察、メディア、ネット住民たちを尻目に、誘拐サイトは“驚くべき相手”に身代金を要求する――。前代未聞の「劇場型」誘拐事件が、日本社会に“命の価値”を問いかける。



新進俳優として注目されていた兄が、自分がかばい交通事故で亡くなった。やり場のない悲しみと後悔を抱える琴子は、死者に再会できるという千葉の内房にある食堂へと向かう。その店で故人との思い出の料理を食べると、ありえない現象が起こるというのだ。半信半疑で訪れた彼女を包んだ温かな奇跡とは？感動の涙をおさえきれない切なくて優しい連作短編集。

試験休み(3/1~)・春休み中は閉館します。  
(ただし3/5・22のAMは開館)  
春休み中の返却日は4月9日です。  
長いお休みの間に、ゆっくり本を読みませんか。

